

# 福生市高齢者・障害者生活実態調査

## 報告書

概要版

### 1 調査実施の目的

本調査は、高齢者・障害のある人の生活実態及び福祉施策に対する要望等を把握し、平成29年度に実施する福生市介護保険事業計画（第7期）及び福生市障害者計画・障害福祉計画（第5期）策定のための基礎資料を得る目的で実施しました。

### 2 調査の方法

(1) 調査地域 : 福生市全域

(2) 調査基準日 : 平成28年12月1日現在

(3) 調査期間 : 平成28年12月9日(金)～28日(水)

※認定調査員による聞き取り調査は、平成29年1月31日(火)まで

(4) 対象者及び人数：下記の表をご参照ください

	調査区分	調査対象	対象者数	配付・回収
高齢者調査	一般高齢者	65歳以上の市民（抽出）	1,948人	郵送配付・ 郵送回収
	要支援（認定）者	要介護認定「要支援」で 在宅の市民	348人	
	要介護（認定）者	要介護認定「要介護」 で在宅の市民	1,081人	郵送配付・ 郵送回収 認定調査員による 聞き取り調査
障害者調査	身体・知的障害者、 難病患者	身体障害者手帳、愛の手帳を 交付されている市民 難病にり患されている市民	1,783人	郵送配付・ 郵送回収
	精神疾患患者	施設、医療機関等へ依頼し、 協力を得られた人	211人	施設等へ依頼・ 郵送回収

### 3 回収結果

対象者	配付数	有効回収数	有効回収率
一般高齢者、要支援（認定）者	2,296件	1,527件	66.5%
要介護（認定）者	1,081件	534件	49.4%
身体・知的障害者、難病患者	1,783件	988件	55.4%
精神疾患患者	211件	99件	46.9%
合計	5,371件	3,148件	58.6%

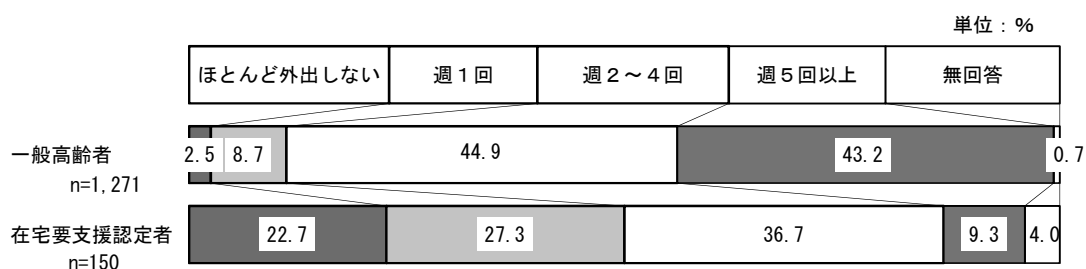
# 高齢者生活実態調査の結果

## 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

### (1) からだを動かすことについて

#### ①外出について

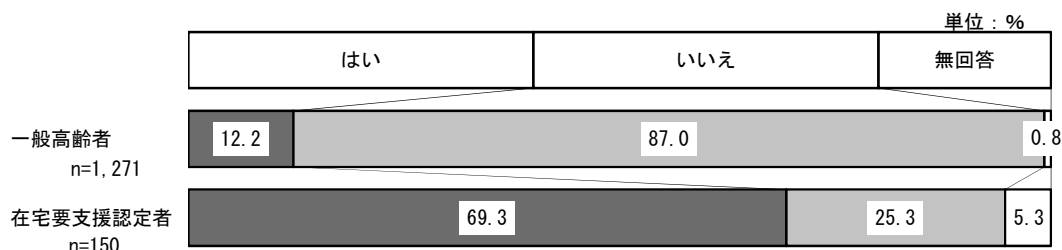
週に1回以上外出しているかどうかについては、一般高齢者では「週2～4回」(44.9%)、「週5回以上」(43.2%)が多く、両回答を合わせると9割近くを占めていますが、要支援者では「週2～4回」(36.7%)が最も多く、「週1回」(27.3%)や「ほとんど外出しない」(22.7%)との回答も多くみられます。



昨年と比べて外出の回数が減っているかどうかについては、一般高齢者では「減っていない」(50.4%)が最も多く、「とても減っている」(1.9%)は2%程度となっていますが、要支援者では「減っている」(46.7%)が最も多く、「とても」も合わせるとほぼ7割(69.4%)となっています。

外出を控えているかどうかでは、一般高齢者では「いいえ」(87.0%)が多く「はい」は1割強(12.2%)となっていますが、要支援者では「はい」(69.3%)が多く、「いいえ」(25.3%)を大きく上回っています。また、外出を控えている理由としては、一般高齢者・要支援者のいずれでも「足腰などの痛み」が最も多くなっています。

要支援者では、外出を控えるためその回数が顕著に減っていることが分かります。



#### ②その他

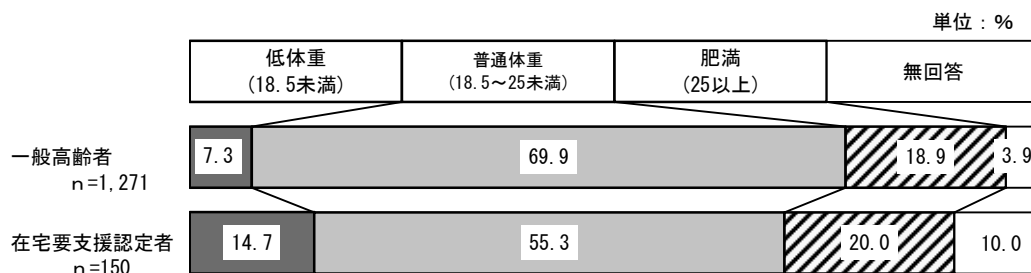
<階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかどうか>、<椅子に座った状態から何にもつかまらずに立ち上がっているかどうか>、<15分位続けて歩いているかどうか>については、共通して、一般高齢者では「できるし、している」が、要支援者では「できない」が最も多くなっています。

## (2) 食べることについて

### ①「BMI」について

\* BMI : やせや肥満の程度を表す指数で、その人の体重 [kg] ÷身長 (m) ÷身長 (m) の式で算出します。

一般高齢者・要支援者とも“普通体重”の人が最も多くなっています。要支援者では、一般高齢者よりも“低体重”の人が7.4ポイント多くなっています。



### ②「共食」の機会の状況

一般高齢者・要支援者とも「毎日ある」が最も多く、一般高齢者ではほぼ半数（49.8%）となっていますが、要支援者では「年に何度かある」が14.7%、「ほとんどない」が22.0%などとなっており、食事をともにする機会が相対的に少ないことがうかがえます。

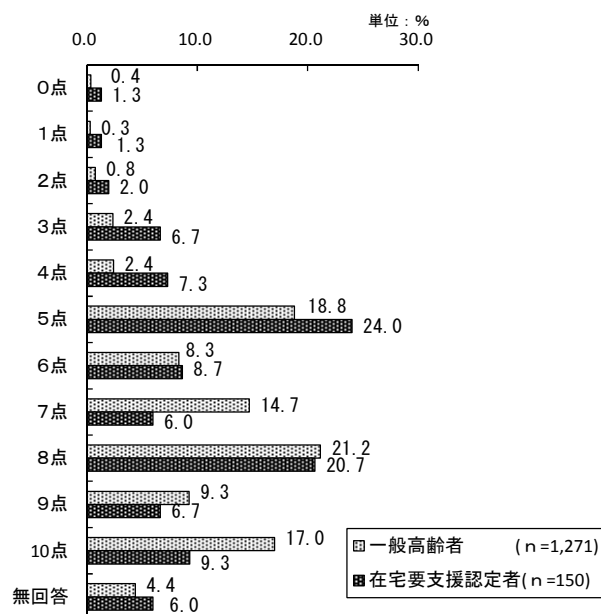
## (3) 健康等について

### ①現在の健康状態

一般高齢者では「まあよい」という回答が最も多くなっています。要支援者では「まあよい」は38.7%にとどまっており、「あまりよくない」が42.7%で最も多くなっています。

### ②現在の幸福度（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として考えた場合の点数〔整数〕）

一般高齢者では「8点」（21.2%）が最も多く、次いで「5点」（18.8%）が多いですが、要支援者では「5点」（24.0%）が最も多く、次いで「8点」（20.7%）が多くなっています。要支援者では、一般高齢者に比べて自己の幸福度についての評価が低いことが分かります。



## **在宅介護実態調査**

### **(1) 主な介護者について**

#### **①主な介護者の属性等**

「子」(47.9%) が最も多く、性別は「女性」(68.6%)で、「60 歳代」(29.1%)が多くなっています。

#### **②主な介護者の行っている介護等**

「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(78.5%) が最も多く、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(76.3%)、「食事の準備(調理等)」(72.1%)が続いています。

#### **③「介護離職」の有無**

家族や親族の中で本人の介護のために過去1年の間に仕事を辞めた方がいるかどうかについては、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」(58.3%) という回答が最も多くなっています。

### **(2) サービスの利用などについて**

#### **①介護保険サービスの利用状況**

現在、「住宅改修」「福祉用具貸与・購入」以外の「介護保険サービス」を利用しているかどうかについては、「利用している」という回答が過半数(56.9%)を占めて多く、「利用していない」は34.1%となっています。また、「利用していない」と答えた方にその理由をたずねたところ、「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」(31.3%)が最も多くなっています。

### **(3) 介護者に対する質問**

#### **①介護を行う上で困っていること**

「心身の負担が大きい」(34.3%) が最も多く、「介護者のリフレッシュのための時間がとれない」(28.9%)、「早朝・夜間・深夜などの突発的な対応が大変である」(23.5%)が続いています。

#### **②現在の生活を継続していくにあたって主な介護者が不安に感じる介護等**

「無回答」(24.0%) が最も多く、次いで「認知症状への対応」(23.5%)が多く、「夜間の排せつ」(21.0%)が続いています。

#### **③「仕事と介護の両立」で効果があると思う職場からの支援**

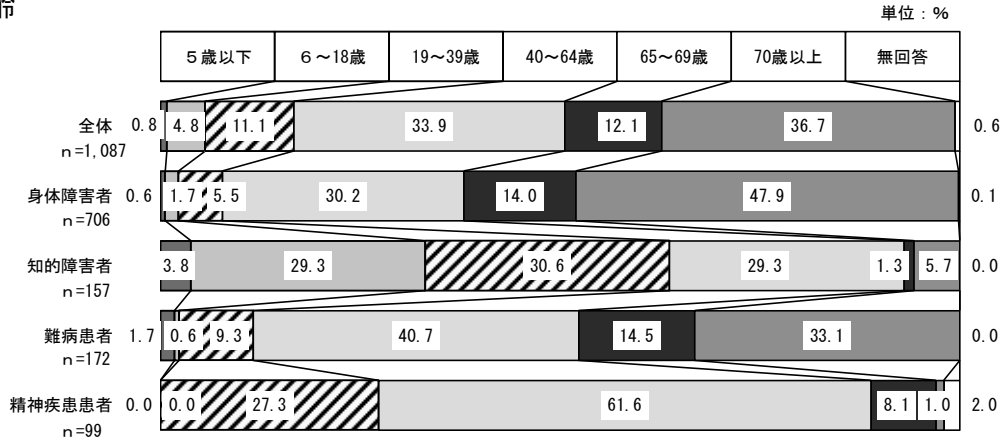
「無回答」(44.4%) が最も多く、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(15.8%)、「特にない」(13.6%)、「制度を利用しやすい職場づくり」(12.6%)が続いています。

また、フルタイム、パートタイムで働いている人では、共通して「介護休業・介護休暇等の制度の充実」という回答が最も多くなっています。

# 障害者生活実態調査の結果

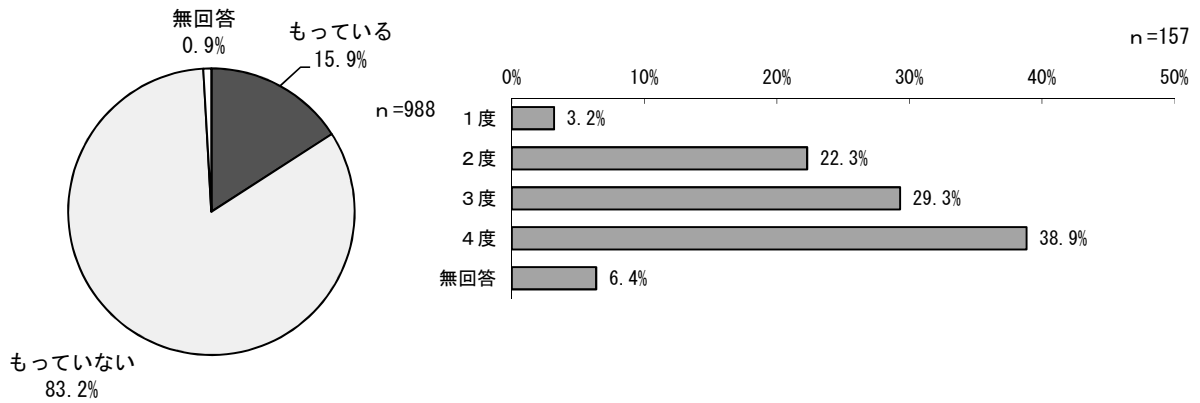
## (1) 回答者の基本属性

### ①年齢



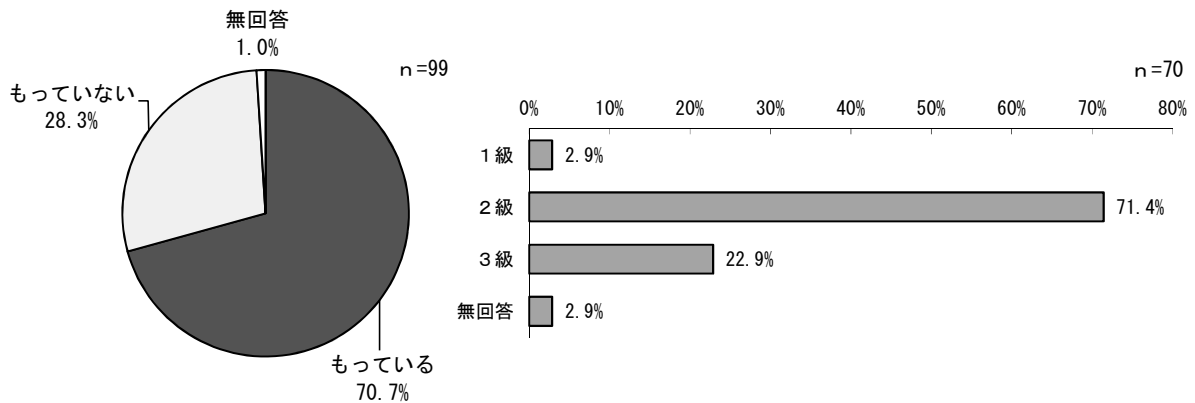
### ②愛の手帳の取得状況と程度

[身体・知的障害者、難病患者]



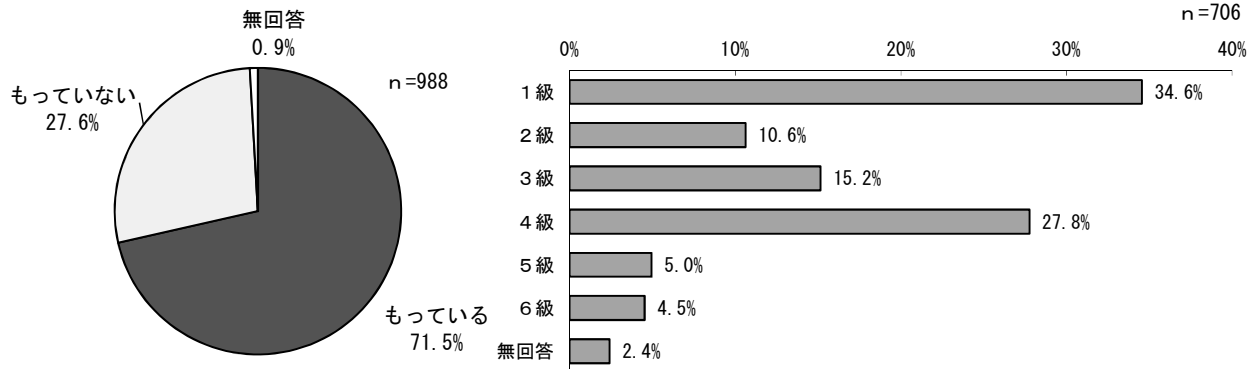
### ③精神障害者保健福祉手帳の取得状況と等級

[精神疾患患者]

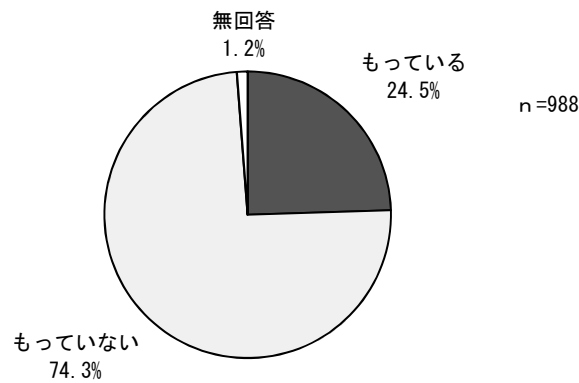


#### ④身体障害者手帳の取得状況と等級

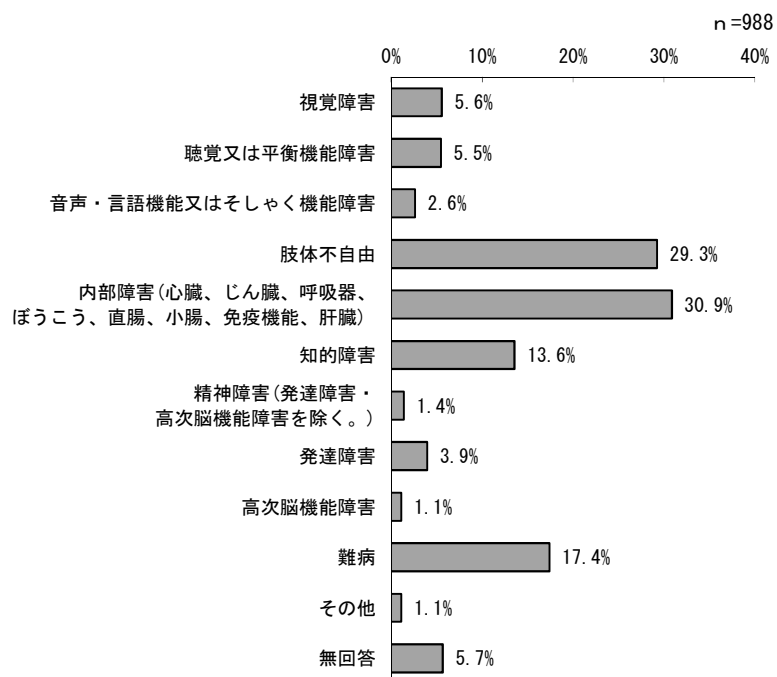
[身体・知的障害者、難病患者]



#### ⑤難病医療費助成制度(東京都)の医療券の取得状況(身体・知的・難病調査のみ)



#### ⑥障害の種類(身体・知的・難病調査のみ)



## (2) 日常生活について

### ①買い物や趣味、遊び、散歩などの外出状況(身体・知的・難病調査のみ)

外出状況については、身体障害者、難病患者では「1人で外出する」が7割を超えて最も多く、知的障害者では「介助者と外出する」(49.7%)が最も多くなっています。外出時の主な介助者については、身体障害者、難病患者では「介助者はいない」が4割を超えて最も多くなっている一方で、知的障害者では「親」(44.8%)が最も多くなっています。

### ②音響付き信号機について(身体・知的・難病調査のみ)

音響付き信号機の設置希望については、あった方がいいと「思う」が45.8%、「思わない」が42.9%で、わずかに「思う」が多くなっています。音響付き信号機を設置してほしい場所については、「福生駅東口西友前」が34.9%で最も多くなっています。

## (3) 就労について

### ①現在の就労状況

現在の就労状況については、身体障害者では「今後も働く予定はない」が24.8%と最も多く、知的障害者、難病患者では「今後も現在の仕事を続けたい」が3割を超えて最も多くなっています。また、精神疾患患者では、「今後も現在の仕事を続けたい」、「現在働いていないが、今後働きたい」、「働けない状況にある」が3割近くと多くなっています。

### ②「働く場」や「活動の場」を充実させるために必要なもの

「働く場」や「活動の場」を充実させるために必要なものについては、身体障害者、難病患者では、回答があった中では「特に必要なものはない」が2割台後半で最も多くなっている一方、知的障害者では「自分に合う仕事の紹介や相談をしてくれるところ」(37.6%)が最も多くなっています。また、精神疾患患者では、「病気のことを理解してくれて、就労を通して社会適応訓練などを行ってくれる制度」が半数を超えて最も多くなっています。

## (4) 日ごろの活動について

### ①楽しみや生きがい(身体・知的・難病調査のみ)

楽しみや生きがいについては、身体・知的障害者、難病患者のすべてで「趣味・娯楽」が半数前後を占め、最も多くなっています。

## (5) その他の福祉サービス等について

### ①日常生活の中での人権を損なう扱いの有無

日常生活の中での人権を損なう扱いの有無については、身体・知的障害者、難病患者、精神疾患患者のすべてで「特になし」が3割～4割台後半で、最も多くなっています。しかし、次いで多いものについては違いがあり、身体障害者では「差別用語が使われた」(5.4%)、知的障害者・難病患者では「わからない」(知的：17.2%、難病：5.8%)、精神疾患患者では「希望する仕事に就けなかった」(18.2%)となっています。

## ②「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」の認知状況

「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」の認知状況については、身体障害者、知的障害者、難病患者では、「名称は聞いたことはあるが、内容はよく知らない」がそれぞれ3割以上を占め多くなっています。一方で、精神疾患患者は「名称も内容も知らない」が40.4%と最も多くなっています。

## ③悩みや困ったことの相談先

身体・知的障害者、難病患者のすべてで「家族、親族」がそれぞれ過半数以上を占め、最も多くなっています。また、精神疾患患者では「家族」(57.6%)が最も多くなっています。

## ④市に期待すること

市に期待することについては、身体障害者・難病患者では「障害者に配慮したまちづくり」(27.3%)が最も多い一方、知的障害者では、「グループホームの整備」(31.8%)が最も多くなっています。精神疾患患者では、「就労の場の確保」(38.4%)が最も多くなっています。

## (6) 災害時の対応について

### ①災害発生時に健康上困ること(身体・知的・難病調査のみ)

災害発生時に健康上困ることについては、身体障害者、難病患者では「困ることがある」がそれぞれ4割を超えて最も多くなっています。一方で、知的障害者では「特にそういうことはない」(46.5%)と回答した人が最も多くなっています。

### ②災害発生時に心身の健康面や生活面で困ること(精神疾患等調査のみ)

災害発生時に心身の健康面や生活面で困ることについては、「医療機関の通院やその他の医療ケアが受けられなくなると困る」(40.4%)、「普段、服薬している薬が手に入らなくなると困る」(37.4%)が多くなっています。

### ③「福祉避難所」の認知状況

「福祉避難所」の認知状況については、身体・知的障害者、難病患者、精神疾患患者のすべてで「知らない」が8割を超え、「知っている」を大きく上回っています。